



全国学力学習状況調査結果について

4月18日に実施した「全国学力・学習状況調査」について、結果をまとめましたのでお知らせします。この調査は皆様ご存じの通り、全国全ての小・中学校で実施し、対象学年は中学校3年生、小学校6年生です。全国の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育施策の成果と課題を検証・改善して、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。今年度の調査内容は、教科は国語・数学・英語でした。また、児童生徒及び学校に対して、生活習慣や学習環境等についても調査を行い、今後の指導に役立てる調査になっています。個票も配布しましたので、お子様とご一緒にご覧いただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

表の見方について

(1) 結果「全国との比較」について

- 全国比±5ポイント以内のものを「同程度」
- +5ポイントを超えたものを「上回る」
- 5ポイントより低かったもの「下回る」

(2) 分析と今後の取組について

- ◎印・・・今後も大切にしたい点
- 印・・・課題点と今後の取り組み
- 印・・・本校の特性（生徒の状況）

教科に関する結果の概要

教科	結果「全国との比較」	分析と今後の取組
国語	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で下回った。	◎事象や行為、心情を表す語句について理解しているかは正答率86%で全国と同程度であった。 ◎各項目の無解答が少なく、問題を解こうとする意欲が感じられる。 ●記述形式での解答に課題が見られる。求められるいくつかの条件を含めて記述しなければならない場面で、情報が不足している生徒が多い。 →求められる条件を考え解答する問題に不慣れなため、正答率が低かったと思われる。問題演習を通して、解答する際の条件を確認してから問題を読み解くよう指導していく。 →新聞記事から自分の考えを書く課題の取組を今後も継続する。
数学	「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の領域で下回った。	◎数と数式の乗法の計算は県の正答率を上回り、全国と同程度となった。問題場面における考察の対象を明確化する問題では、正答率が89%で全国を上回った。 ◎関数については、あと0.5ポイントで全国と同程度となる。 ◎各項目の無解答が少なく、問題を解こうとする意欲が感じられる。 ●グラフやデータから情報を読み取り、数学的に表現する解答に課題が見られる。複数の要素を含めて説明しなければならない場面で情報が不足している生徒が多い。 →知識・技能を活用して問題を解くだけでなく、自分の考えを詳しく説明し、より考えを深める交流活動を増やしていく。 →生徒の習熟度に応じて、TT（チームティーチング）等を通し、個に応じた授業を進め、細やかな学習支援を行っていく。
英語	「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の領域で下回った。	◎情報を聞き取る問題は、正答率が85.9%で全国を7ポイント上回った。 ◎各項目の無解答が少なく、問題を解こうとする意欲の高さが感じられる。 ●文中の事実と考えを区別して読み取る解答に課題が見られる。 →要点を捉えて長文を読む活動を行う。 →自分の考えを言わせたり書かせたりする場面を意図的に設け、考えを述べる表現に慣れさせる。

学習状況に関する結果の概要

項目	本校生徒の状況	分析と今後の取組
家庭生活及び自分自身について	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日同じぐらいの時間に就寝・起床している割合が高い。 ○毎日朝食を食べる割合が低い。 ○自分にはよいところがあると思っている割合が高い。 ○将来の夢や目標を持っている生徒の割合が高い。 ○幸せを感じる機会が多いと生活を肯定的に感じている割合がとても高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎早寝・早起きの習慣が身に付いていることが分かった。 ◎自己肯定感が高く、夢や目標を持って前向きに行動する集団であることが分かった。 ◎生徒たちが安心できる居場所が家庭にも学校にもあることが分かった。 ●毎日朝食を食べるメリットについて、今後も学活の時間やお便り等で発信していく。
家庭学習について	<ul style="list-style-type: none"> ○家で計画を立てて勉強している割合が高い。 ○平日に2時間以上勉強している生徒の割合が高い一方で、休日に2時間以上勉強している生徒の割合が低い。 ○分からないことがあったときに先生に聞いたり、自分で調べたりして解決しようとする割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭学習に計画的に取り組んでいる生徒が多いことが分かった。 ◎授業の後や放課後等に、宿題や家庭学習で分からなかったことを質問する生徒が多い。今後も気軽に質問できる場を設けていく。 ●家庭学習時間を増加させる手立てを講じていく。家庭学習の意義を再確認するとともに、4月に配付した家庭学習課題一覧を定期的に確認し、家庭学習が充実するよう支援する。
学校生活地域での活動について	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に行くこと、友達と協力することが楽しいと思っている割合が高い。 ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている割合がとても高い。 ○住んでいる地域の行事に参加している割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎授業や行事などに積極的に取り組む等、学校生活が充実している生徒が多いことが分かった。 ◎友達との関わりを大切にし、互いの意見を尊重しようとしている生徒が多い。 ●コロナ禍で地域での行事が少なかったことが結果に表れた。地域連携事業等を通して、地域社会との関わりについて考えさせ、積極的に関わろうとする気持ちを育てていく。
授業について	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の調査科目であった数学・英語の勉強が好きだ、大切だと感じている割合が高い一方で、国語の勉強については割合が低い。 ○英語の授業でスピーチをする機会が少ないと答える割合が高い。 ○学習の中でICT機器を使うのは勉強に役に立つと思っている傾向がある一方で、授業の中でICT機器の使用は少ないと感じている割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎本校では教員が一丸となって「主体的・対話的で深い学び」を意図した授業づくりを行っている成果が少しずつ表れてきている。 ●英語だけでなく、各教科で発表などの表現活動を充実させていく。 ●国語は、表現活動の根幹となることから、表現することの楽しさや有用性について実感できる授業づくりを行っていく。 ●ICT機器の使用頻度は教科により差異がある。 →ICT機器についての実践的な研修を継続し、どの教科でも効果的に活用していく。

今回の全国学力学習状況調査では上記にまとめた通り、自信としたい良い点や、解決すべき課題が数多く明らかになりました。本校では、この調査結果だけでなく、柴田町学力調査や中間考査・期末考査・実力テスト、さらには各教科の単元テストなど生徒が取り組んだ学習活動をしっかりと分析・評価していきます。そして、生徒の学習状況を把握し、一人ひとり個に応じた丁寧な学習指導を展開してまいります。

また、学習指導で大切にしていることは「夢や希望を大切にす志」「学習意欲の向上」「粘り強く学習に取り組む実行力」など、身につけるべき「学びに向かう人間性」です。今後も、職員が一丸となり、学ぶことが楽しくなるような興味・関心を引き出す授業づくりに取り組んでいきます。

保護者の皆様、これからも本校の教育活動にご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。